

未曾有の

積雪

急集
緊特



記録的な大雪

市民生活に大打撃

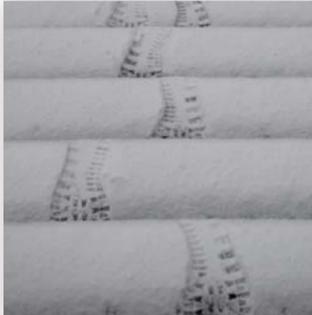
長崎地方気象台によると、1月23日から25日にかけて強い冬の気圧配置となり、九州北部地方の約1,500メートル上空には氷点下15度以下の寒気が流れ込みました。

1月24日、本市は記録的な大雪とマイナス4度という厳しい冷え込みに見舞われました。山間部も平野部も一面の雪景色となり、この影響でバスや列車などの公共交通機関も運転を見合わせ、市内全域の道路では、チェーン規制となりました。さらに、記録的な大雪は市民生活も直撃。1月25日、市内小中学校および高校が休校となったほか、水道管凍結による破損が原因で漏水が多発し、数日にわたる市内各地で断水しました。1月26日、陸上自衛隊には災害派遣を要請し、給水車による給水を実施しました。

「共助の精神」でご尽力いただき感謝を申し上げます

1月23日から25日かけて、九州各地で過去に例を見ない記録的な寒波に見舞われました。平戸市も例外ではなく、10cmを超える積雪があり、交通機関のマヒや学校の休校など多大な影響が出ました。中でも水道管の破裂による漏水のため、給水施設保全が必要となり、緊急断水をせざるおえない状況になりました。こうした思いがけない事態により、市民の皆様には不安な中でご不便を強いられたにもかかわらず、率先してSNSを

活用した情報発信や自宅の井戸水の提供を实践された有志市民の方々、また、給水所から独り暮らしの高齢者宅に配給に回られた自主防災組織のご活躍など、「共助の精神」で協力して災害を乗り越えられたことに深く感謝申し上げます。今後は今回の教訓を生かし、いつこのような自然災害が起きても迅速に対応できる体制づくりを構築するとともに、あらゆる広報媒体を使い事前周知も徹底してまいりますので、市民皆様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。
平戸市長 黒田成彦



生活が混乱

大規模な断水に伴い、各地に給水所が設けられるなど日常生活が混乱。その中で、自主防災組織が活躍し、市民レベルでお互いが助け合う活動が実践されました。その取り組みを紹介します。

市内24カ所で給水所を設置

市では、市内各地で水道管凍結による破損が原因で漏水が多発し、貯水池の水位が著しく低下したため、市内各地で断水を余儀なくされ、1月26日～29日まで各地区に給水所を設置しました。その間、水道局職員だけでなく、市職員も動員し、漏水調査を行うなど、早期の復旧に向けて対応し、29日の午後には完全復旧しました。



給水所の様子



漏水調査の様子

派遣要請を行い、3日間で延べ15カ所で給水活動を行いました。



自衛隊による給水活動の様子

自衛隊に災害派遣要請

1月26日、市だけでの給水作業は対応できないと判断し、自衛隊に災害

自主防災組織が活躍

今回の断水で、給水所は設置しましたが、給水所まで行くことができない、独り暮らしの高齢者世帯が数多くありました。その中で、自主防災組織が地域のために自分たちで活動

し、高齢者世帯に水を配って回るなど、給水所とのつなぎ役として大きな役割を果たしました。今回は、水垂地区自主防災組織の取り組みをご紹介します。

災害は忘れたころにやってくる。自分の地域は自分で守る。



水垂地区自主防災組織 度島正剛さん

今回の断水で、水の大切さについて改めて考えさせられました。多くの住民は、停電についての備え(ロウソク・懐中電灯など)はあると思うが、「水が長い間使えない」という状況への備えについては乏しいと感じました。今回特に問い合わせが多かったのが、水洗式トイレの問題です。最近のトイレは水が流れないと使用できず、大変苦慮しました。

水垂地区では1月に自主防災研修会を行い、地区の課題を共有しその課題に対する取り組みなどを話し合いました。そのおかげで、今回の断水時も自主防災組織が率先して活動しないといけないと思い、給水タンクに水をくんで、地区の高齢者や体の不自由な人の世帯を巡回しました。「自分の地域は自分たちで守る」という意識をもって、今後も研修などの自主防災活動に取り組んでいきたいと思えます。

生月町浦北地区でも研修会を実施

2月7日には、生月町の浦北地区において、地元消防署、消防団、婦人会などが参加しての合同研修会を開催しました。

研修会では、「ハザードマップ」を使った危険箇所の把握や、災害時の非常食の作り方、消火栓を使った放水の訓練なども行われました。

参加した皆さんは、いつ災害が起きてもいように真剣な面持ちで取り組んでいました。



- ①放水訓練
- ②消防署放水説明
- ③非常食講座
- ④危険箇所の把握

災害の記憶

今回の災害について、特に復旧が長引いた中南部地区のお二人にインタビューしてきました。

もっと事前に断水情報の提供を

今回、断水するにあたっては、もう少し事前の告知をしてほしかったですね。事前に告知してもらえれば、タンクやお風呂に水を貯めたりして、断水に備えておくことも出来たと思います。

今後は、事前の情報発信の徹底や断水時に活用できるような対策マニュアルの作成なども検討してほしいと思います。



青崎徳藏さん(前津吉町)

正確な情報発信を

断水が実施されて、いつ復旧するのかわからず、2日間工場の稼働をストップしました。その間、従業員にタンクなどを借り受け、どうにか工場用水を確保でき、3日目に稼働させることができました。

今回、復旧の情報が錯綜したことから、今後は正確な情報発信をお願いしたいですね。



アリエス(株)代表取締役社長 尾上智昭さん

今後の取り組み

災害において、どのような事態になっても、「自分の命は自分で守る」ことが基本となりますが、個人の力には限界があります。また、被害が広範囲になればなるほど、公的機関の対応が十分できなかったり、個別の対応が困難となつてきます。

今回のような大規模な断水では、市内各所に給水所を設置しましたが、特に高齢者のみの世帯などについては、自力での水の確保が困難な状況でした。そのような中、地域の人たち(自主防災組織)などが独自に応急対応を行い、給水所と高齢者世帯などのつなぎ役として活躍していただきました。

普段から顔の見える関係である地域住民同士が「有事の際には助け合おう」という意識をもって、取り組んでいくことが、自主防災組織の活動であり、その態勢を作っておくことが、今後はますます重要であると認識しました。

現在、市と平戸防災ネットワーク(市内の防災士が集まり結成した組織)が協力し、地域の避難所や危険箇所などを記載した「ハザードマップ」を見ながら、「地域の課題や不安」を共有しています。今後も、自主防災組織が取り組むことを話し合う研修会を各地域で開催していきます。



市指定水道事業者
(有)松尾設備 松尾 雄介さん

各家庭でも凍結防止対策を

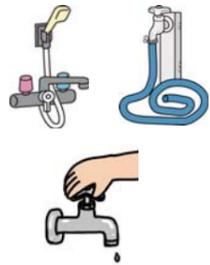
今回の大雪の影響で、漏水の修理に各家庭を回っていると、水道管やメーターボックスなどの場所がどこにあるのかわからない家庭や、水道管の凍結防止の対策などをしていない家庭が見受けられました。

気温が急激に下がる時は、水道管がむきだしになっている箇所は、特に凍結しやすくなるので、タオルや布類、新聞紙を巻いて、保温することで凍結予防になりますし、家庭内でも蛇口の水を少量出しておく、水道管が凍りにくくなります。また、その水をポリタンクや鍋、浴槽などに貯めておけば、断水になった場合に飲料水やトイレなどにも活用できます。

これからは、各家庭で水道管やメーターボックスの場所の確認や、天気予報や市の防災無線などで水道管凍結の注意喚起がでた時には、凍結防止対策や漏水のチェックなどをしてほしいですね。

各家庭でできる漏水チェック方法

①家の敷地内の蛇口を全て閉めてください



②敷地内のメーターボックス(量水器)を確認



③ここが回っていたら、漏水しています



※漏水している場合は、すぐに市指定の事業者へ修理を依頼してください。

今回の漏水による水道料金の減免

1月23日から25日にかけて発生した寒波の影響で、水道管が破裂・破損し、多くの漏水被害が確認されています。漏水により高額となった水道料金については、「平戸市水道料金等の減免の取扱いに関する要綱」に基づき、減免措置を以下のとおり行います。

1. 減免の対象者

1月23日から25日にかけて発生した寒波の影響で水道管が破裂・破損による漏水が発生し、通常より使用水量が増加している水道使用者

2. 減免の内容

減免は、平成28年1月使用分と昨年同月分(平成27年1月使用分)と比較して増額分を減免します。

3. 減免の対象になる請求月

平成28年1月使用分(平成28年2月請求分)

4. 申請期間・申請場所

2月4日(木)～3月31日(木) 午前8時30分～午後5時15分(土曜、日曜、祝日を除く)

市水道局・各支所・各出張所

※申請に必要なもの・申請方法については、市のホームページをご覧ください。

■お問い合わせ 水道局総務班 ☎22-3838

断水の原因

水道管が破裂した主な原因は何だったのか
ダムから家庭に水が届くまでの仕組みと、今回断水に至った要因。また、今後の備えについて詳しく説明します。

水道の仕組みについて

まず、ダムや川から汲み上げられた水は、家庭用や工場用などの水道水として供給するために、浄水場できれいにされます。きれいになった水は、浄水場から直接、各家庭や工場などに送られています。ここから、水道局が管理している配水管を通じて、水を流しますが、この管は、各家庭の敷地内には、直接入り込んでいません。

各家庭に水を引き込むには、配水管から給水管をつなぐ必要があります。新しい家を建てる時に、道路を掘って工事している風景を目にすることがあるかと思いますが、これが配水管と給水管をつなぐ工事です。この配水管と給水管を通じて、各家

庭の蛇口へと流れていきます。

気温の低下がもたらした大規模な断水

水道管は、気温がマイナス4度以下になると、凍結するといわれています。特に、古い住宅などでは、水道管が屋外に設置していたり、風当たりが強い箇所に設置しており、凍結しやすくなります。北海道や東北などの寒冷地は、水道管を屋外に設置する場合などは、断熱材を巻くなどの凍結防止対策を行っています。

1月24日(25日未明)にかけて、市内において、最低気温がマイナス4度近くになったことから、屋外に設置している水道管が凍結し、破裂したのと思われる場合があります。この破裂した箇所が、約1,300世帯に上り、大規模な漏水が発生し、配水池の水が著しく減ったことで、大規模な断水を実施しました。



水道管破裂の様子



水道の仕組み

